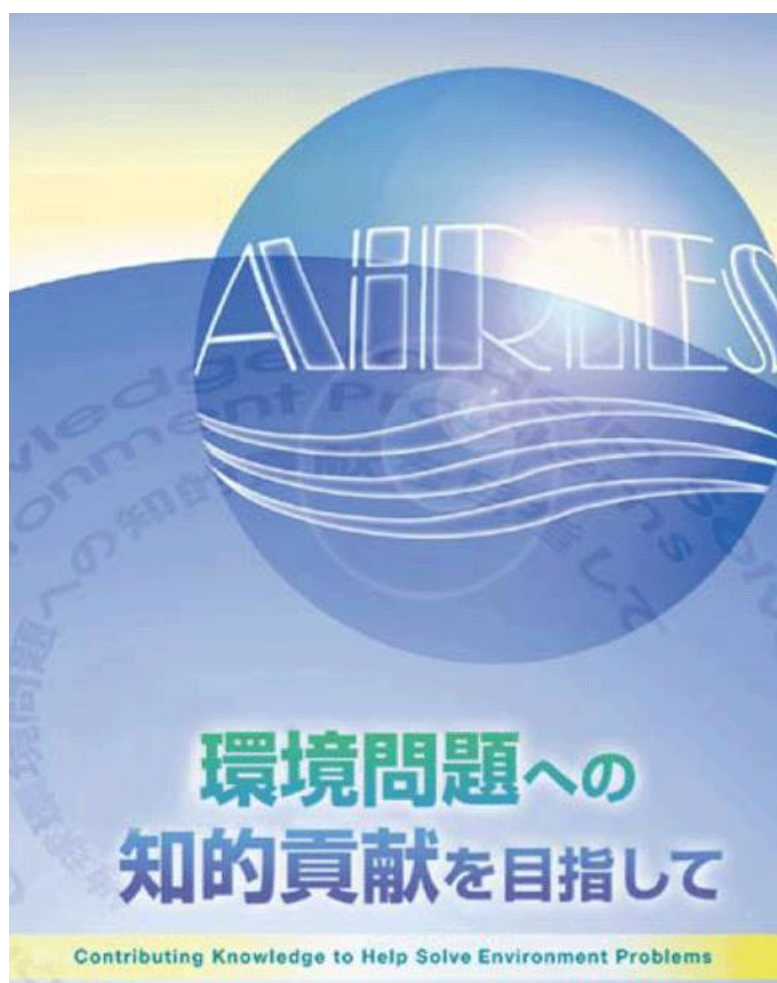


# 国際環境研究協会ニュース

AIRIES NEWS  
AIRIES NEWS

2019年3月 第273号



## CONTENTS

- 1 協会業務報告
- 2 AIRIES 随筆 (112) 「希少種保護の現場 ～対馬より～」  
永野 雄大 (環境省対馬自然保護官事務所 自然保護官)
- 3 英文会誌最新号のお知らせ
- 4 業務報告

# 協会業務報告

徳田博保(専務理事)

そろそろ花粉症の季節ですが、世界的な大寒波や麻疹の流向などの陰に隠れてか、これまでのところ報道量は少なめのような気がします。飛散量は例年より多くなりそうとのことですが・・・。

アメリカを襲った大寒波に対しては、トランプ大統領が、「地球温暖化はどうなったんだ。早く戻ってきてくれ。必要なんだ。」(What the hell is going on with Global Warming? Please come back fast, we need you! (原文のまま)) などとツイートしていました。Warming の綴りが間違っていて、側近の検閲を受けていない生の声のようですが、巷の冗談と同レベルであるところに親近感を抱く人もいるかもしれません。

かつてアメリカがくしゃみをするると日本は風邪をひくとよく言われていました。麻疹の発生源がどこかは知りませんが、両国とも襲われています。グローバル化が進むと、有形無形を問わず他国に飛び火しやすくなります。

アメリカのメディアはトランプ大統領から厳しく批判されていますが、わが国でも大手メディアの位置づけが大きく変化してきているようです。

公益財団法人新聞通信調査会が昨年 10 月に発表した「メディアに関する全国世論調査」では、30 代までの若者は新聞をあまり読まないようで、「情報源として欠かせない」とした人の割合は 2 割に届いていません。その情報が信頼できるとする人も 4 割程度にすぎません。(ちなみに 70 代以上では、いずれも 6 割超です。) テレビについては、「情報源として欠かせない」人の割合が新聞の 2~3 倍にはなっているようですが、信頼度については同様に低くなっています。新聞やテレビを見なかったり信頼し

ない人が大半になりつつある中では、国民の生活習慣を地球にやさしいものにしていくための呼びかけ方法にも一層の工夫が必要になってきているようです。

さて、協会の業務ですが、「CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」については、平成 30 年度継続課題の中間評価のための評価委員会等が終了しました。3 月上旬から中旬にかけ、平成 31 年度新規課題の採択のための評価委員会等が開催されます。

「環境研究総合推進費」については、今年度最後の追跡評価委員会が終了し、企画委員会では平成 31 年度新規の採択課題が決定されました。

「マイクロプラスチックのモニタリング手法の標準化及び調和に向けた検討業務」については、3 月上旬に国際専門家会合を開催します。前回、前々回の会合では recommendations をまとめてきましたが、今回は、それらを踏まえた guidelines として議論される予定です。世界は狭くなり、飛行機に乗ってしまえばあっという間でしょけれども、ビザ・パスポートの取得に四苦八苦している専門家もいるようで、国境を無視する大寒波や麻疹などと同様にはいかないようです。

これから年度末が近づき、業務結果報告、精算報告等の各種報告のとりまとめ作業が集中してきます。また、すでに平成 31 年度業務の各種入札公告が始まっていますが、上述の事業を含め国際環境研究協会の名にふさわしい事業の獲得に努めてまいります。

引き続き、みなさまのご指導・ご支援のほど、よろしく願いいたします。



## 「希少種保護の現場 ～対馬より～」

永野 雄大(環境省対馬自然保護官事務所 自然保護官)



写真：対馬野生生物保護センター

筆者は、昨年の2018年4月から長崎県の対馬で勤務している。国境を接するような離島で働くのは、北海道の利尻礼文に続き2回目となった。環境省の出先機関である対馬自然保護官事務所、ここでは主に希少野生動物であるツシマヤマネコの保護増殖に関する業務を行っている。希少種の保護といっても対象となる種によって仕事の中身は全く変わってくるが、今回はツシマヤマネコを守る取り組みを少し紹介したい。

### ツシマヤマネコの現状

ツシマヤマネコは、額に黒と白のたてじま模様が走り、尻尾は太くて長い。丸っこくてやや小さめの耳は裏に白い斑点があり、これは虎耳状斑とよばれ他のイエネコと明確に分ける特徴である。およそ10万年前に当時陸続きだった大陸から渡ってきたと考えられ、朝鮮半島などに広く分布するベンガルヤマネコの亜種とされている。

地元の人たちからは「とらやま」とか、人里の田んぼの近くで見られることから「田ネコ」と呼ばれるなど、人とヤマネコが近い距離で生活しており、筆者も田んぼの中で1度だけ見たことがある。

しかし、最新の調査では2010年代前半に70頭又は100頭と推定されるほどにその数を減らしており、その分布も島の北部に偏り南部にはほとんど生息していない。主な要因としては、森林伐採や耕作地面積の減少、最近ではシカやイノシシの食害による森林内の下層植生の衰退により、ネズミなどの餌資源や好適な生息環境が減少していることがあげられている。また、昨年は1年間で6頭のツシマヤマネコが車に轢かれて死ぬなど、交通事故による影響も大きい。

### 対馬自然保護官事務所の概要

1997年に開所した対馬自然保護官事務所は、対馬野生生物保護センターが併設され、2階が事務室、

1階がツシマヤマネコの特徴や生態などを紹介する展示フロアとなっている。ツシマヤマネコの一般公開もしているが、現在はネコの体調不良により公開を休止している。ネコの飼育ケージや治療室も整備されており、衰弱や怪我をした野生のヤマネコの保護・治療を行っている。

2013年には対馬の南部に厳原事務室が開所し、ツシマヤマネコ野生順化ステーションが併設されている。本施設は原則非公開で、筆者もこちらに勤務しているが、事務室のある調査研究棟のほか、総面積約7haの広大な敷地に6つの野外ケージがあり、ここでツシマヤマネコの絶滅を回避する選択肢の1つである飼育下繁殖個体の野生復帰（補強や再導入）に関する技術開発を進めている。

これら2つの事務所に15人以上が働いており、その中には獣医師や飼育員もいる。自然保護官事務所の中では人数の多い職場である。今回は割愛するが、ツシマヤマネコの他にもカワウソやツシマウラボシシジミ、特定外来生物のツマアカスズメバチなども我々の業務となっている。

### ヤマネコ緊急ダイヤル

対馬自然保護官事務所では『ヤマネコ緊急ダイヤル』を設けており、「ヤマネコが道路で轢かれている」、「ヤマネコが罠にかかった」、「ヤマネコが怪我している」などの通報を毎日24時間受け付けている。このダイヤルは対馬野生生物保護センターの電

話番号なのだが、夜間等でセンターに職員が不在の場合は、複数の業務携帯に順番に転送される仕組みになっている。筆者も1台持っているのですが、特に保護収容が増える秋から冬にかけては気が気ではない。ひとたび通報があれば、深夜だろうが休みの日だろうが関係なく職員がすぐさま出動し、ツシマヤマネコの保護収容に向かう。自分が出動する機会はあまりないのだが、それでも夜間や休日に出動したことがある。現場に着いても既になくなっていたり、死んでいたり、他のイエネコだったりすることもあるが、その命を1つでも多く守り繋ぐために365日備えている。

### Ft-84の野生復帰

昨年に発生したヤマネコの保護収容から野生復帰までの事例を1つ紹介したい。なお、ここで言う「野生復帰」は、保護した野生個体を治療した野生に戻すことで、上述した飼育下繁殖個体の野生復帰とは意味が異なるのでまず補足しておく。12月1日に1頭のツシマヤマネコが保護された。体格が小さいことから亜成獣だと思われ、箱ワナに誤って捕獲されたものであった。個体にはFt-84というように個体番号が付けられ、これで野生生物保護センターが開所してから84個体が保護されたことになる。X線検査や血液検査などを実施したところ貧血が見られ、原因は餌をとれていないことによる衰弱と推察された。そのため、給餌による栄養補給により経



**ヤマネコの野生復帰のお知らせ** 

**峰町津柳で保護されたヤマネコが野生に帰りました！**

2018年12月、箱わなに誤ってヤマネコが入ってしまいました。野生生物保護センターに収容して治療を行い、無事元気になりましたので、2019年1月下旬に保護地点で放獣しました！

**ヤマネコが箱わなに誤って入ってしまった場合はご連絡をお願いします。**  
※箱わなの使用には許可が必要です

連絡先：対馬野生生物保護センター(担当 ●●) TEL: 0920-84-5577 ※24時間対応

官公庁からのお知らせ

過を観察することにした。その後、貧血が改善し放  
獣前の検査でも問題無かったことから、1月23日  
の夜に保護された場所と同じ場所で放獣した。放獣  
に当たっては、地元ケーブルテレビでの文字放送、  
周辺住民へのチラシ配布や回覧などによる周知を  
徹底している。万が一にも交通事故に遭ったりしな  
いよう、人々に少しでも気をつけてもらうためでも  
あるし、ツシマヤマネコへの理解を少しでも深めて  
もらうためでもある。そのとき、地元のある方から  
『ヤマネコは対馬の宝だから大事にせないかん』と

言われた。とてもとても嬉しく思った。ヤマネコに  
対する考えは対馬の中でも様々あるが、『ヤマネコ  
は対馬の宝』という思いを少しでも広げていきたい  
と思う。

他にも、ツシマヤマネコの生息状況調査や、交通  
事故対策、飼育下個体の繁殖、野生復帰のための技  
術開発、地域社会づくりなど、ツシマヤマネコの保  
護対策は多岐に渡り書けば長くなるので、今回はそ  
の代表的な取り組みの一部を紹介させてもらった。

(了)

## 英文会誌最新号のお知らせ

2018年度刊行の英文誌、Global Environmental  
Research Vol.22 No.1&2 “PM2.5 Pollution” (責  
任編集委員:大原利眞氏・小野雅司氏・佐藤啓市氏)  
は、企画から1年以上、ようやく刊行の目途がたつ  
たところです。

PM2.5等による大気汚染は、2013年に北京で発  
生した高濃度大気汚染を機に、わが国でも大きな社  
会問題となってきました。

本誌 Part1 では、環境省の環境研究総合推進費で  
行われてきた研究をレビューし、問題解決の方向性  
を探ります。

Part2 では、アジア諸国でも特に大気汚染がひど  
い中国、韓国、モンゴル、ベトナムの研究者に、各  
国の PM2.5 汚染の研究成果の状況と対策について  
執筆いただきました。

3月末には、当協会 HP へ掲載を予定しています。

### 【CONTENTS】

#### <Part 1>

- An Overview of PM2.5 Pollution Research  
Conducted in ERTDF Project since 2011  
..... T. OHARA and M.ONO
- Characterization and Source Apportionment  
Studies of PM2.5 Using Organic Marker -  
based Positive Matrix Factorization  
..... K. KUMAGAI and A. IIJIMA
- Establishing a Reference Modeling for Source  
Apportionment and Effective Strategy-Making  
for Suppressing Secondary Air Pollutants  
..... S. CHATANI, et al.
- Epidemiological Studies on Health Effects of  
Fine Particulate Matter (PM2.5) in Japan  
..... M. SHIMA

#### <Part 2>

- The Status of PM2.5 Pollution in Asia and  
Direction toward Solving the Issue  
..... T. OHARA and K. SATO
- Air Quality Management Achievements,  
Challenges and the Way Forward in China :  
Including PM2.5 and Other Major Air  
Pollutants ..... D. YAO
- Chemical Composition of the Ambient PM2.5 in  
2014 over Korea ..... M.Y.SUNG, et al.
- Current Status of PM2.5 Pollution and its  
Mitigation in Ulaanbaatar City of Mongolia  
..... O.DUGERJAV, et al.
- Current Status of PM2.5 Pollution and its  
Mitigation in Vietnam ... T.NGUYEN et al.

# 業務日誌



(2019年2月)

1/31(木),2/1(金):推進費制度 H31 新規採択ヒアリング(統合  
部会)に参加(ERCA 東京事務所)

マイクロプラ事業 専門家会合準備 WG を開催

4(月):推進費制度 追跡評価委員会(第3回)を開催  
(商工会館)

CO2 対策事業 中間評価ヒアリング(再エネ分野)を  
開催(全日通霞が関)

7(木):CO2 対策事業 検討会に出席(東京)  
マイクロプラ事業 打合せ(環境省)

8(金):CO2 対策事業 検討会に出席(東京)  
CO2 対策事業 打合せ(環境省)

13(水):マイクロプラ事業 打合せ(協会)

14(木):CO2 対策事業 検討会に出席(東京)

15(金):CO2 対策事業 新規課題打合せ(環境省)

19(火):推進費制度 環境研究企画委員会 座長説明(東京)  
CO2 対策事業 視察(東京)

21(木):推進費事業 第3回環境研究企画委員会を開催  
(ERCA 東京事務所)

推進費事業 第3回環境研究推進委員会に出席  
(ERCA 東京事務所)

CO2 対策事業 検討会に出席(東京)

22(金):CO2 対策事業 検討会に出席(東京),(弘前)

26(火):CO2 対策事業 検討会に出席(大洗),(環境省)

28(木):CO2 対策事業 評価委員会を開催  
(大手町サンスカイルーム)

\* 推進費制度:環境研究総合推進費制度運営・検討業務

CO2 対策事業:CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・  
実証事業管理・検討等事業

マイクロプラ事業:マイクロプラスチックのモニタリング手法  
の標準化及び調和に向けた検討業務

ERCA:独立行政法人環境再生保全機構

AIRIES NEWS  
AIRIES NEWS

編集・発行

一般社団法人国際環境研究協会

(日本学術会議協力学術研究団体)

〒110-0005 東京都台東区上野 1-4-4

TEL:03-5812-2105

FAX:03-5812-2106

E-mail:airies@airies.or.jp

Homepage:http://www.airies.or.jp